

# 農繁期 レポート

令和8年 4-5月号

## ニールファーム

オーナー 株式会社G-7新流  
産地 三重県伊賀地区  
水田面積 9.0アール  
保証量 玄米252kg  
形態品種 コシヒカリ(JAS認証待ち)



### 生産者 (株)ツーライフ農園:北出 茂樹さん

お世話になっております。  
今年も継続してオーナー様になってくださり心より感謝申し上げます。  
去年は30度を超える真夏日が1か月以上続き、登熟期の高温により稲に大きな負担がかかりました。  
今年はその影響を少しでも回避すべく、田植え時期を昨年より10~15日遅らせ、5月25日前後にほとんどのオーナー様の田植えを実施いたしました。  
あとは私の判断が良い結果につながることを祈るばかりです。

#### 4月~5月の作業内容

##### 1. 育苗

幼少期を集約的に管理して、均一に生育させることが目的です。育苗の初期である発芽から苗立ちの期間の管理が、その後の生育を大きく左右するため、最も重要な場面であるといえます。



育苗ハウスの作業の様子

##### 2. 荒起こし

トラクターで硬くなった土を砕き、空気や水を入れて柔らかくする作業です。土をほぐすことで根張りがよくなり、微生物の働きも活発になります。また、次の代かき作業がしやすくなり、田植えの準備がスムーズに進みます



トラクターでの荒おこし

##### 3. 代かき

田起こし後の田んぼに水を張り、土を細かく砕いて均す作業です。苗がムラなく育ち、植え付けもしやすくなります。水漏れ防止や肥料・有機物の混和、雑草の抑制にも効果があります。昔は牛や馬に馬鍬を引かせており、古民家に牛舎跡が残ることもあります。



トラクターでの代かき

##### 4. 田植え

代掻き作業から数日後に行う作業です。昔は一族総出で行っていましたが、田植え機が発明され作業負担が軽減されました。田植え機にはガイドがあり、まっすぐきれいに植えることができます。稲の良好な生育をイメージしながら作業します。



田植え機を使った田植え